

チェンマイ大学での貢献 (57)

伊藤信孝

チェンマイ大学客員教授・工学部

前報で **SAFE Network** の関係でインドネシアに招待されたことを紹介した。今年(2018) 2月に、タイのチェンマイにある2つの大学でワークショップを開催するということで連絡が入った。その2つの大学というのはチェンマイラジャバット大学(CMRU, Chiang Mai Rajabhat University) とマエジョ大学(MJU, Maejo University)だと言う。CMRUはラジャマンガラ大学と並んで職業訓練、特に教員育成を目指したもので、日本で言う師範学校という位置づけになる。ラジャマンガラ大学は工業に主力を置いた大学でチェンマイ大学の隣にもその校舎(Campus)があるが、タイ全土にわたりかなり多くの数のキャンパスを有しているが、大学教育充実の方針に沿って4年生、大学院(修士・博士課程)設置などに向けての途上にある。マエジョ大学はタイ北部ではチェンマイ大学よりも古い歴史を有し、農業教育を主軸に創設された大学である。現在もカウ・ボーイ(Cow boy)を前面に打ち出し、今も農業に強い大学としての位置を維持している。チェンマイ大学の卒業生も多くがこの大学で教鞭を執っており、筆者もそうした関係で過去には1学期だけ大学院生に論文の書き方を教えて欲しいとの依頼を受けて週に一度出向いた経験がある。今でも現職のかつての学部長やチェンマイ大学の知人の友人という事でチェンマイ大学に赴任したときからの知り合いで副学長として健在の教員も居る。最近ではチェンマイ大学の博士課程に籍を置いていた教員の一人が一身上の都合で課程の継続が一時的に出来なくなったということで離れたが教員として勤務している若手の教員や、かつて三重大で博士課程を終えた留学生など知人は多い。2月4、5、6日にわたる3日間のワークショップであったが、チェンマイ大学としては筆者の関係の政府関連施設がその建設をほぼ終えた時期でもあり、見学の機会を用意して案内した。ラジャバット大学では翌日学術講演会があり、夕食を済ませイベントを終えた。最終日は見学会と言うことでマエジョ大学の再生可能エネルギー(Renewable Energy Research Institute)研究施設がその見学先となった。朝早くからマエジョ大学に向くと上記の多くの知人に顔を合わせる事が出来た。知人の副学長が訪問者受け入れのその日の主役であった。バイオガス、バイオマス、太陽光、風力発電など各種再生可能エネルギーに関する研究プロジェクトのオン・パレードで、おまけに新規の建物が出来上がったばかりという点がより強力なインパクトを見学者に与えた事は疑いの余地は無い。この新施設の竣工祝いが2月18日に行われたが、筆者は公式に招かれた。さらにこの大学との関係を知らしむる行事の一つは昨年(2017)夏頃にマエジョ大学が企画開催した再生可能エネルギーに関する国際ワークショップに基調講演者として招かれた事である。筆者の基本姿勢としては関係する学術関係のイベントには必ずと言って良いほど参加し、また必ず口頭・論文発表することになっているのでその記憶も鮮明に残っている。今回の **SAFE Network** イベ

ントではチェンマイ大学は含まれておらず、言うなれば筆者が昨年インドネシアに招かれたことがきっかけでグループ会員としての登録、公式参加への道が開かれた。ここ1, 2年の間にチェンマイ大学でのSAFE Networkの行事が開催されることが了解された。これも貢献と言えば貢献であるが、周辺の中小大学が連携して、積極的に行事企画と実施をネットワーク内の大学と頻りに繰り返しているエネルギーを肌で感じるとき、大きな大学の動きの遅さと無頓着さに出鼻をくじかれそうになる思いを隠せない。うかうかしていると大きな大学は置いて行かれるという危機感に乏しいと言っても過言ではない。書き忘れたが上記ラジャバット大学での講演会では筆者も発表の機会を頂き、講演発表した。テーマはグリーン・キャンパス(Green Campus)で筆者が母校の三重大学を退官する少し前に、学内に放置してある自転車や家電製品の回収とそれを用いた修理技術のスキルアップを機械工学の学生に実践させると言うプロジェクトを紹介した。強調したいところは、単に教育として教えるのでは無く、いかに直すかを現物を前に考える創造性の開発を促す所にある。最近では3次元プリンタなどが出回っているが、単純に作るというのではなく学生自身が独創的なものを設計し制作して大学グッズとして販売するなど、多岐にわたる教育を双方向で行う教育が重要であること。高額な機械を購入してプログラムのみを学ぶのでは無く、学んだプログラム手法を使って独創的な製品を作り出し、販売し消費者の反応を直に感じさせると言う実践的教育が、特にアジアの大学では極めて重要である。当初はスマート・キャンパス(Smart Campus)と言うタイトルで話をしてくれと聞いていたが、その後グリーン・キャンパスに変わった。内容的には放置自転車への対応、すなわち放置自転車を集めて、関係分野の学生に修理させると同時に修理の方法、利用工具の名称までも教え、時には溶接や、ガスを使った大がかりな修理法の教授、修理を終えた完成車の留学生への供与、不足部品の新規購入経費の調達、放置自転車の有効利用、キャンパスの環境整備への効果など利点が多い。また放置自転車の処理は学外業者委託であった事に比し、大学予算の不必要な支出を抑える意味での利点も上げられるが、参加学生の実践スキルアップと、自ら参加する自主性の育成、モチベーション・アップにも効果を期待できる。放置自転車のみならずPCやOA製品の処理などへの同種の教育の応用などインパクトは大きかったと思われる。日本では建物の更新は解体業者が入り、全てを壊してその処理費を建築依頼主が負担する。タイでは解体業者がある程度の契約金を払い、建築依頼主は支払いの必要は無いと言う。その代わりに解体業者は解体で出てくる資源を選別区分けして売却して利益を得ると言う。したがって何もかも全てをぶっ壊すのでは無く、その前にアルミの窓枠や未だ利用できる資材を回収し、売却して設けるという仕組みになって居る。日本とはまるで反対である。資源資材を大切にするという考え方に大きな違いがある。

マエジョ大学の再生可能エネルギー研究施設の見学を終えて昼食の後、シリキット王女植物園が見学の場所であった。QSBG (Queen Sirikit Botanical Garden) はこれまでも何度も足を運び訪れたことがある。単なる訪問や見学では無く、知人の奥様(タイ人)がその植物園の所長(Director)の地位にあった事もあって度々訪れたと言う背景もある。その所長も

2年前に退職したと知人は電話で話してくれた。その知人とは今でも時々食事をしたりして良好な関係が続いている。知人を知った時にはわからなかったが、その知人はカナダ国籍でかつてタイのアジア工科大学院(Asian Institute of Technology)の卒業生であると言う。筆者も短期間ながらその大学で教鞭を執っていた事もあり急に両者の距離が縮まった。何年も前にチェンマイ大学を去り別の職場を見つけて顔を合わせる機会は少なくなったが、機会を見つけては昼食などを共にしている。良好な人間関係を維持することが、特に客員教員には重要と考えて居る。それは筆者自身の為では無く、学生の就職、留学先大学への紹介、推薦、補習など広いネットワークを維持・堅持しておく事が相手機関や学生に対しても重要と認識して居る。

さて上述したように2018年2月18日に再生可能エネルギー施設の建物が新築され、その開所式に招待された。チェンマイ大学からは約20キロ余程に位置するが、車を持たない筆者はCMUの工学部から車を用意してもらい朝早くから出向いた。日曜日と言うことで差ほど交通渋滞も無いであろうと予測していたが、目的地のマエジョ大学に近づくと、様相は一変して急に多くの車が側道に列を成しているのが目に入ってきた。同時に風船や動物のぬいぐるみなどを売る露店が軒並みに目に入り、「何事か」と気を揉んだが答えはすぐにわかった。マエジョ大学の卒業式で空き地の殆どが卒業式に参加する学生とその家族が乗ってきたであろう車が所狭しと臨時の駐車場になって駐車されていた。CMUからの車の手配の時に交通渋滞を考え、早めに出た方が良いとのスタッフの言葉がようやく理解できた。招聘状と開所式のプログラムは全てタイ語で書かれた公式文書なのでタイ語の読めない筆者には何が書かれているのか見当もつかない。すべては運転手任せでキャンパスに入ったが中はごった返していて、運転手もどこに行っても良いかわからない。そうこうするうちに、かつての三重大学の卒業生(博士課程修了)に電話がつながった。彼によると筆者が目指す目的地はキャンパス内では無く外の施設だと言う。筆者も「なるほどそうだったか」と記憶を取り戻したが、目的地までの道筋は自分が運転してきたわけでは無くグループの一人として連れてきてもらったので詳細はわからない。つながっている電話を運転手に渡し説明を聞いてもらい、やっとの事で目的地に到着した。近くまで行くと「そうだ、ここだった」と言う記憶は目覚めるが近くに行くまではどこをどの様に移動しているのか見当もつかない。ようやく目的の新築の建物の前につくと筆者がCMUに招かれたときに学生のみぶんであった男性がマエジョ大学に努めていて、彼が筆者の姿を見るなり駆け寄り、プログラムでは8時30分から10時30分まで公式の開所式があるとのことで、それ以後のプログラムはないとのことを運転手に告げ、セレモニーが終わるまで筆者を待つよう運転手に告げてくれた。CMUからも現職の教員や退職者も参加していたので心強かった。1週間前の訪問の時にも顔を合わせた副学長にも学部長にも会うことが出来た。公式の開所式が終わると学術研究活動の展示がポスター・セッションで成されており、商品化された製品と共に展示されていたので、しばしの間見学し軽い昼食を頂いてCMUに戻った。私は少し前まではマエジョ大学の副学長であったと言う人物にも会うことが出来た。マエジョ大学が農学を礎

に創立された大学であること、またその人が 1 週間ほど前に日本に行きイチゴ栽培などを見学してきたと言う。今では多くのビジネスにも関わり名刺には種々の肩書きが書かれていた。こうした公式の式典を通じて新たな人との出会いがあることは嬉しいことである。CMUのみならずマエジョ大学やタイの大学の将来的人材育成には信頼できる良好な人間関係の維持が必要である事は既に説いた。早速今日の出会いと会見の嬉しさを配信しあらためて挨拶としたい。その人物からの返信も驚くばかりの早さで、良き人との出会いを大事にしつつ、タイでの更なる貢献が出来るよう頑張りたいとの決意を新たにされた次第である。



Fig. 1 チェンマイ大学メヒア・キャンパスに新築の Science & Technology Park (略称 STeP)で説明を受ける SAFE Network ワークショップ参加者一行



Fig. 2 STeP 新築建物を見学する参加者

Fig.3 ラジャバット大学でのワークショップでの講演風景



Fig.4 ワークショップでの講演の後の昼食（左）と丘陵地に点在する施設（右）
いずれもラジャバット大学のキャンパスにて



Fig. 5 ラジャバット大学のエネルギー環境関係研究施設
太陽光発電（左）と施設管理棟入り口（右）



Fig. 6 マエジョ大学で歓迎を受ける参加者一同（左）と
再生可能エネルギー研究施設を見学する参加者